

Track01

(SE: ノック音)

【位置: 正面・普】

(ダウンナーなやる気のない感じの声で)
入りましたまえ。

(SE: 扉を開く音)

(SE: 足音)

(ダウンナーだけどころとだけ嬉しそうに)

【位置: 右耳・近 ASMR が生きる耳元囁き声で】

やあ、助手君。よくきたね。

今日、君に来て貰ったのは他でもない、私が開発した新商品の実験だ——げふんげふん、モルモットになって貰いたいと思ったからなんだよ。

え？ 言い換える意味がない？

ふふ。細かいことはいいんだよ。

今回、君に試して貰うのは、この超リアル電動オナホだ。

本物の女性の膣を再現するために、実際に私のヴァギナを型取りして作った超本格派オナホ——おや、どうしてそんなに赤い顔をしているんだい？

ああ、もしかして、私の裸でも想像してしまった？

(ちょっと呆れた感じで)

やれやれ。

君も物好きだね。

私の裸にセクシュアリティを感じるとは。

(でもやっぱりちょっと嬉しそうに)

…まあ、女としてそういう反応をされるのも悪い気はしないけれどね。

ともかく今回はこのオナホを君に試してもらおう。

もちろん感想は後できっちりレポートして貰うからね。

(SE: 足音)

【位置: 正面・普】

…おや？ どこに行くんだい？
トイレ？ どうしてわざわざ？

ここでやりたまえ。

気にすることはない。ここには君と私しかいないのだから。

【位置: 左耳・近 ASMRが生きる耳元囁き声で】

(ちよつとからかうみたいに)

ちなみに、これはれつきとした業務命令だ。拒否権はないからね？

まあ、私も鬼ではない。

少しウォーミングアップの時間をあげよう。

まずはこの水着に着替えて、パンツの上から弄って性感を高めたまえ。

そもそもある程度は自分で勃たせないと、オナホも使いようがないからね。

(SE: 主人公着替える)

【位置: 正面・近】

うん。着替えたら、そのベッドに横になって。

(SE: 鎖でベッドに四肢を繋がれる)

【位置: 右耳・近 ASMRが生きる耳元囁き声で】

…これひよし。

うん。見ての通り君の四肢をベッドの四隅に拘束させてもらった。

安心したまえ。跡に残らない素材だから、家族や恋人に余計な疑いをもたれる心配はないよ。

こう見えても私は部下想いの優しい上司なんだ。

(ちょっとだけ真剣な感じに)

…ところで、君に恋人はいるの？

(「いない」と言われてちょっと嬉しそうに)

【位置：正面・近】

…ふうん？ なるほど。そうか。

いや、なんでもないよ。気にしないでくれたまえ。

では、早速始めよう。

え？ 手足を固定されてたら触れない？

はは。そんなことはわかっているよ。

【位置：右耳・近 ASMRが生きる耳元囁き声で】

もちろん君の代わりに私が触ってあげるよ。遠慮することはない。ここには君と私だけしかない。

これから起こる出来事は君と私の二人だけの秘密だ。いいね？

うん。いい子だ。

では始めよう。

痛かったら言ってくれたまえよ。

(パンツの上から興味深そうにペニスを弄りつつ)

【位置：正面・近】

ん…。

ふむ…。

ほう…。

これはこれは…。

ん？ どうしたんだい？ 息が荒いよ。

おや、もう硬くなってきたね。

若いだけあって、なかなか感度がいいようだ。羨ましいよ。

(タマを触りつつ)

【位置：左耳・近 ASMRが生きる耳元囁き声で】

ちなみに、こっちの感度はどうかな？

ふふ。そんなにビクビクしなくてもいい。握り潰したりはしないよ。

そう。もっとリラックスして？

【位置：正面・近】

んっ…。

ふむ…。

うん…。

ふむふむ…。

なるほど。興味深い。

やはり人体は生命の神秘に満ちているね。

(真剣に悩んでる感じで)

…しかし、いささか硬度と張りが足りない気がするね。

(とてもいいことを思いついた感じで)

よし。では、こうしよう。

(SE：パンツの上からペニスを舐め始める。音を出す感じで)

んっ♡ ちゅっ♡ ぺろっ♡

うん？ 何を驚いているの？

何をしているってペニスを舐めているだけだよ？

こうすると男性は気持ちよくなるんだろう？

(SE: パンツの上から舐める。効果音を出す感じで)

んっ♡ ちゅ♡ へっ♡

はむっ♡ むちゅ♡ れえろれろ♡

んちゅ♡ じゅぢゅ♡ ぶぢゅ♡

じゅぢゅ♡ じゅぢゅ♡ じゅぼ♡

れえろ♡ れろ♡ れろれろ♡

(舐め終えて)

【位置: 左耳・近】ASMRが生きる耳元囁き声で

…うん♡ だいぶいい感じに硬くなってきたね。

(鼻を鳴らして匂いを嗅ぐ)

【位置: 正面・近】

すんすん。くんくん。

(ちょっととうっとりした感じで)

…ああ。いいね。このパンツ越しにも漂ってくる発酵臭♡

(不快ではなく純粋な興味から訊ねている感じで)

君、きちんと毎日お風呂に入っている？

ふふ。それは良くないな。風呂に入る暇もないぐらいに働き詰めなのはいいことだが、それは女の子にモテないよ？

【位置: 左耳・近】ASMRが生きる耳元囁き声で

では、実験に付き合ってくれたお礼にこうしよう。

(口を大きく開けてパンツの上からテント部分を舐めしゃぶる感じで)

【位置: 正面・近】

はあむ♡ ちゅぢゅ♡ れろれろ♡

うん。パンツ越しにもはっきりとカタチがわかるいいモノを持っているね♡

れろれろ♡ はあむ♡ ちゅぢゅ♡

ちゅぷ♡ はむ♡ れろれろお♡

【位置：右耳・近 ASMRが生きる耳元囁き声で】
ふふ♡

どんどん大きくなってきた♡

ほら、見える？

立派なテントだよ？

安物の生地が張り裂けてしまいそうなほどだ。

【位置：正面・近】

はあむ♡ じゅぷ♡ じゅぷ♡

ずちゅ♡ ぶちゅ♡ ぶちゅ♡

じゅぷ♡ じゅぷ♡ じゅぷ♡

(舐めしゃぶりを終えて)

ふはあ♡ うん、もういいかな♡

それじゃあ、いよいよご対面と行こう。

(SE：衣擦れの音)

(興奮気味に目を開いて)

お、おおっ…♡

こ、これは…♡

ふふ♡ なかなか立派なものを持っているじゃないか♡

パンツ越しにもオーラはあったが、生で見ると想像以上だよ♡

では、直接試していくとしよう。

潤滑油には我が社のローションを使わせてもらうよ。

(手に垂らしたローションで手コキをしていく。しこしこはハッキリと発音してからかう感じに)

【位置：右耳・近 ASMRが生きる耳元囁き声で】

こうして、とろーりと手に馴染ませて…しこしこ♡ しこしこ♡

(ウエット手コキ開始)

ふふっ。どうしたんだい？

そんなに切なそうな息を漏らして。

そんなに私の手コキが気持ちいいのかい？

そうか。悪い気はしないね。では、もう少しサービスするでしょう。

(SE: ローションを垂らす音)

(SE: 手コキ音ゆっくり)

(乳首を舐めながら手コキ)

【位置: 正面・近】

んちゅ♡ はあむ♡

ぶちゅ♡ れえろ♡

(いったん口を離して。手コキは継続)

おや？ 乳首を責めながらローション手コキされるのは嫌い？

そう。安心したよ。じゃあ、そのまま身を任せていて。

【位置: 左耳・近】 ASMR が生きる耳元囁き声で

大丈夫。悪いようにはしないよ。

(乳首舐め再開)

【位置: 正面・近】

はむ♡ ちゅお♡ じゅお♡

ぶちゅ♡ じゅお♡ ぶちゅう♡

じゅお♡ くちゅ♡ おちゅ♡

(舐め【終了】)

おはあ♡

うん♡ いい感じにビンビンになってきたね♡

(SE: 手コキ音終了)

(我慢汁に気づいて)

おや、先っぽから何かが…。

【位置: 左耳・近 ASMRが生きる耳元囁き声で】

ふふ。こんなところからも涎を垂らすなんて。はしたない子だね♡

さあ、いよいよ。本番だ。

このピンピンに勃起した君のおちんぽに、私のおまんこを象(かたど)ったオナホールを装着する。

ふふ。なんだかドキドキするね♡

では、始めるよ。

(SE: ピストン音ゆっくり)

(オナホで手コキ開始)

【位置: 正面・近】

んっ…ふむ…ほう?

ふむ…おお…へえ…。

ふんふん…。

(ちょっと楽しそうに)

ふふ。君はなかなか興味深いリアクションをするね。

うん? もう出そう?

随分と堪え性がないんだね、君は。

うん。まだ駄目。

だって、そうでしょ?

そんなに早く達してしまったら実験にならないじゃない。

というわけで、絶対に出しちゃ駄目だよ。出したらその瞬間にクビだから♡

ふふ。君のその絶望した表情、堪らないね。ついもっとイジメたくなってしまっよう♡

【位置：左耳・近 ASMRが生きる耳元囁き声で】

(SE：ピストン音普通)

ほら、しっかり耐えて。しこしこ♡ しーこしこ♡

(楽しそうにからかう感じで)

ん？ 出そう？ 出そうなの？ もう駄目？

(SE：ピストン音普通終了)

(寸止め)

【位置：正面・近】

じゃあ、ちょっと休憩♪

おや？ せっかく寸止めしてあげたのに、なんだか悲しそうな顔をしているね？

いっそひと思いにクビになった方がよかった？

じゃあ、再開しよう。

(SE：ピストン音普通)

はい、しこしこ♡

しーこしこ♡

しこしこしこ♡

どう？ 私のオナホは気持ちいい？

【位置：左耳・近 ASMRが生きる耳元囁き声で】

(オナホを使いつつ、耳元に口を寄せて)

…ほら、想像してみてください？

オナホじゃなくて私自身とセックスしている自分の姿を。

暗い部屋の中で裸で抱き合った私と君が愛を囁きあいながら愛を交わし合うんだ。

目を閉じて耳を澄ませてごらん？

私の熱い吐息が聞こえるだろう？

はあ…♡ ふう…♡ んあ…♡

んう…♡ くう…♡ はあん…♡

うん？ なあに？

今度こそもうイキそう？

いいよ♡ じゃあ、私のおまんこの中に全部出して？

ただし、私が十数えるまで待ってから。

それまでは絶対に発射しちゃ駄目。

何度も言うけど発射したらその時点でクビだからね？

(ゆっくりと数えていく)

【位置：正面・近】

はい。

いーち、にー、さーん、しー、ごー。

(SE：ピストン音高速)

(いきなりスピードアップ。最後、楽しそうに語尾を跳ね上げて)

ろく、なな、はち、きゅう、じゅう♪

(SE：射精)

はい、どびゅー♡ どびゅびゅびゅー♡

…ふふ♡ はい♡ よく出来ました♡

じゃあ、どれぐらい出たか確かめてみようか？

(オナホをひっくり返して手のひらに精液を出しながら)
よいしょ…つと。

(嬉しそうに)

わあ…♡ 随分といっぱい出たね♡

これだけ出してくれれば、私も開発者冥利に尽きるといふものだよ。

(チラリと横目に主人公の反応を伺う感じで)

…いや？

この場合は、ホールのモデル冥利に尽きる…というべきかな？

(主人公の照れた反応に満足そうに)

ふふ。では、いただきます。

(SE: 精液をすすって飲み込む)

んっ…んくっ…んっ…。

…んんっ…んんっ…ごくんっ♡

(飲み物を一気に飲みしたあとみたいな感じで)

ふはあ♡

(実際にまずいんだけど、嫌そうではなくむしろ楽しそうに)

うん、まずい♡ もういっぱい…なんてね♡

(精飲に驚く主人公を見て)

おや？ 何を鳩が豆鉄砲を喰らったような顔をしているんだい？

まさか私が精飲をするとは想わなかったのかな？

やれやれ。私も見くびられたものだね。

【位置: 左耳・近 ASMR が生きる耳元囁き声で】

(顔をのぞき込み、ささやくように)

助手である君にここまでさせたんだ。

上司たる私にはいつだって相応の覚悟が来ているものだよ。

おや、どうしたんだい？

目の焦点が合っていないよ？

おーい？ もしもーし？

(じつは徹夜明けの大量射精と精神をもて遊ばれた疲れに主人公がベッドに倒れる)
(声はフェードアウト)

(SE: ノックの音)

【位置: 正面・普】

入りたまえ。

(SE: 扉を開けて中に入る)

【位置: 右耳・近 ASMRが生きる耳元囁き声で】

うん。よく来たね。

今日はお願いが…。

断る？ まだ私は何も言っていないよ？

…やれやれ。

君はいつもそう短絡的だから困る。

確かに、私はこれまで多少無理なお願いをしてきたかもしれない。

しかし、だからといって今回もそうだとは限らないだろう？

よろしい。

では早速、そこに横になってくれたまえ。

(SE: 鎖の音)

【位置: 正面・近】

ん？ 何で手足を拘束するのだった？

無論君を暴走させないためだよ。

万が一、という事があるからね。

今回、君に試してもらうのは、私が発明した新型の媚薬だ。

どんな朴念仁もひとたびこれを嗅げば、発情した猿のように腰を振らずにいらなくなる優れものさ。

というわけで、今回は早速君に試してもらおうことにしたよ。

え？ 全く訳が分からない？

(呆れの中に自分の気持ちに気づかない主人公への悲しみを滲ませつつ)

【位置：右耳・近 ASMRが生きる耳元囁き声で】
やれやれ。君は本当に大うつけ者だね…。

なに、安心したまえ。

(嫉妬と怒りで少し早口になりつつ)

私が開発したこの薬にかかれば、目の前にこんなにいい女がいるのに一度も手を出してこない君のようなヘタレでも飢えた狼のように剛直を屹立させて欲情するに決まっているさ。

(主人公に飲ませようとして出ないことに気づき、発射口を確認しつつ)

【位置：正面・近】

…おや？ 出ない…。

おかしいな。こうやって、ノズルを押せば…。

あっ…。

(SE：液体(気体)の出る音)

(SE：ガラスの割れる音または人の倒れるような音)

(劇薬を飲んで苦しんでいるような感じで↑後述しますが、苦しむふりです)

…っ。

…ぐ…あ…。

…くうッ…！

ぐうあ…、

ん…ぐぐぐ。

…んがあああああっ…！

(呼吸が整い、媚薬で目が据わってるような感じで)

…っ。

…はあ…はあ…♡

ふふ。私としたことが…。

どうやら操作を間違えていたらしい…。
まあ、もはやどうでもいいことだ。

【位置…正面・近】

さて、助手君♡

続きを始めようか…♡

なに、多少予定の変更はあったが、実験は成功だよ…♡

要はこの媚薬の効き目が確かめられれば良かったのだからね…♡

ふふ♡

なんだいその怯えた子犬ような目は…。

私がこうも積極的になるのがそんなに意外かい？

だけどね、それは大きな間違いだよ。

(主人公の顔を間近に覗き込みつつ)

【位置…右耳・近 ASMRが生きる耳元囁き声で】

私はね。ずっと君のことを見ていたんだよ？

君が助手として企画開発部に配属されてからすぐのことさ。

当時、私の担当助手は次から次へとひっきりなしに入れ替わっていた。

理由は…君ならわかるよね？

そう。私の実験台にされることを恐れ、すぐに異動または退職願いを出して、私の前から去っていた。

君ぐらいのものだったよ。

なんだかんだと文句を言いながら、ずっと私のそばに居てくれたのはね。

その頃からずっと君のことが気になっていた。

なんなら、何度か誘ってもみたよ？

でも、君は私がどれだけアピールしてもまるで気づかなかったね。

それはもういっそわざとじゃないかと思うくらいに。

ふふ。

でも、今の君の反応を見て確信したよ。

やはり、どうやら君は超のつく鈍感野郎らしい。

愚鈍さは罪だ。

だから、これから君には罰を与えよう。

罪よりも重くて、蜜よりも甘いギルティだ。

…覚悟は出来ているよね？

(ねっとりとしたキス)

【位置：正面・近】

ん…♡

ちゅ…♡

はむ…♡

れろお…♡

…おや、そんなに驚いた顔をしてどうしたの？

私のキスがそんなに良かったのかな？

ちなみに、これは真正銘の私の初めてのキスだよ。

そう。紛れもないファーストキス。

【位置：左耳・近 ASMRが生きる耳元囁き声で】

君は私の唇を奪ったんだよ。

もちろん責任は取ってくれるよね？

ふふ。いい子だ。愚かなことは罪だけれど、素直であることは悪いことじゃないよ。

(勃起。ペニスにふと気づき)

【位置：正面・近】

おや、親と違って随分と元気の良いムスコ君だ。

雄々しくて…まるで鋼で出来た槍のよう…。それにいつになくとても熱いね。

こんな熱い剛直をこのまま突っ込んだら、私のか弱いアソコはすぐに壊れてしまうだろう。

安心したまえ。

こんなこともあろうかと、ちゃんと用意はしておいた。

(SE：戸棚に移動して戻ってくる)

【位置：正面・近】

これがなんだかわかるね？

そう。

私が開発した適温ぬるぬるローションだ。

(ローションをペニスに丁寧に塗りつつ)

ん…。

はぁ…はぁ…♡

うん…♡

いい感じにヌルヌルしてきたね。

【位置：左耳・近】ASMRが生きる耳元囁き声で】

…もう充分だろう♡

私のおまんこはもう我慢の限界だよ…♡

(騎乗位)

(SE：挿入音)

【位置：正面・近】

んっ…♡ あっ…♡

くうううッ…♡

あは…♡

入ったよ…♡

え…？ 血が出てる？

それはそうだろう。
だって、私は処女なのだから…♡

【位置：左耳・近 ASMRが生きる耳元囁き声で】
言ったはずだよ？

私の初めてを奪ったのは全て君だ。

私の初恋も。

ファーストキスも。

初めてのセックスも…。

君だから私は全てを捧げることができた。

ふふ♡

ただ挿入しただけでこんなになってしまうのに、これからより強く肌を重ね合えばいたい
どうなってしまうのだろうね？

じゃあ、試してみようか。

【位置：正面・近】

んっ♡ あっ♡

はぁ♡ くう♡

んぁ♡ ふう♡

あっ♡ んう♡

くうっ♡

【位置：左・近】

す、凄…♡

君のペニスの先が私の気持ちいいところをゴリゴリして…

んっ♡ あっ♡ はぁ♡

んぁ♡ んう♡ くう♡

あっ♡ んっ♡ んぁぁ♡

【位置：正面・普】

…っ…い、イクっ…♡
こんなすぐイクっ…♡
イクイクイクっ…

(絶頂)

イクうううーっ♡

はぁ…はぁ…。

【位置…正面・近】

あは♡ あはは…♡ 参ったね。
こんなに早くイクってしまうとは…。

これでは上司の面目が丸潰れだ。

だが、安心したまえ。

私もただ為されるがままで終わるつもりはないよ。

私にも女のプライドというものがあるからね。

さあ、仕切り直しといこうか。

(SE…激しい騎乗位)

んっ♡ くっ♡ んう♡
んあっ♡ んうっ♡ あっ♡
んあ♡ はぁ♡

…ど、どうだい？ 私の腰遣いは？

これはいわゆるスパイダー騎乗位だよ♡

【位置…左耳・近 ASMRが生きる耳元囁き声で】

ふふっ♡ 助手君♡

今、君はとても可愛い顔をしているよ♡

ちなみに、この体位には立体的な腰遣いができるほかにもう一つ利点があつてね…。

こんなふうに繋がりながらキスやリップができるんだ♡

【位置：正面・密着】

(騎乗位しながらディープキス)

んっ♡ ちゅっ♡ れろっ♡

くちゅっ♡ むちゅっ♡ ちゅちゅっ♡

ふはぁ…♡

どうだい？ ペニスを根元から締めつけられながら、いやらしく舌を絡ませてキスをする感
触は…？

うん、私もだよ♡ やはり君とは気が合うね。私達は心も身体も相性が抜群のようだ。君もそ
う思わない？

え？ 君も動きたいの？

そうか…♡

君も積極的に動いて能動的に私の身体を味わい尽くしたいというわけだね…♡

いいだろう。たまには部下のお願いも聞いてあげないとね…♡

私はとてもいい上司だろう？

(SE：主人公の拘束を解く)

ほら、これで動けるだろう？

(SE：ピストン開始)

【位置：正面・近】

んっ♡ あっ…♡ くっ♡

ず、随分とせっかちなだね。

んっ♡ あっ♡ あっ…♡

んっ♡ くっ♡ あっ♡

んっ♡ あっ♡ ひぁっ♡

ま、待ちたまえ…♡

急に、そんなに激しく突かれては…。

あっ♡ んぁ♡ んう♡

んっ♡ くう♡ あっ♡

んぁ♡ はぁん♡ んう♡

…あ、あはは♡ どうしたの♡

きゅ、急に積極的になったね…？

よ、ようやく私の女性としての魅力に気づいたところかな…？

…まったく遅いんだよ。君は…。

【位置：右耳・近 ASMRが生きる耳元囁き声で】

それで？ さんざん私を待たせた責任をどう取ってくれるんだい？

(まんざらでもない感じで)

結婚？ …フ、フン。ま、まあ、及第点だね♡

【位置：正面・近】

んっ…♡ んぁあっ…♡ くうう♡

ふふふ…♡

どうしたの？ そんなに眉間に皺を寄せて…。

まさかもう限界……？

あはは。き、奇遇だね。

じつは私もそろそろイキたいと思っていたんだ…。

【位置：右耳・近 ASMRが生きる耳元囁き声で】

私が言いたいことわかるよね？
そう。

息を合わせて、共に絶頂の瞬間を迎えようじゃないか…♡

【位置：正面・近】

んっ♡ はぁ♡ んっ♡

あっ♡ あっ…♡

あっ…♡ あっ♡

…ダメだ♡ 私は…もうイクよ♡

君も、もう出せるよね…♡

うん、一緒にイこう…♡

たとえば、それがただの勘違いであっても…今、この瞬間だけは、私と君は二つで一つだっ…♡

22

あっ…♡ はぁっ…♡ んう…♡

【位置：正面・普】

んぁ…♡ あっ♡ あっ♡

あっ…♡ イ、イクっ…♡

君のおちんちんが私のまんこの奥の一番気持ちいいところに当たってっ…♡

(絶頂)

(SE：射精)

イックウウウーっ♡

あっ…♡ んぁ…♡

あっ…♡ はぁ…♡

(SE：逆流音)

(割れ目から溢れるザーメンをぼんやり眺めつつ)

【位置：正面・近】

…ふ、ふふふ♡

君はなかなか剛の者だね…♡

その年齢でこれほどの量は出せること…誇ってもいいよ…♡

はぁ…♡ はぁ…♡

(ちよつと真面目な感じで)

…ああ、そうだ。

ここで、一つ君に謝っておかなければいけないことがある。

先ほど、うっかり自分に媚薬を吹きかけてしまった件だけだね。

【位置：右耳・近 ASMRが生きる耳元囁き声で】

実は、わざとなんだ。

え？ なんでそんなことをって…？

ふふっ。やはり君は大うつけだね。

決まっているだろう？

媚薬のせいにもしないと、私から襲いかかるなんて恥ずかしくて出来なかったからだよ。

(ちよつと不安そうな感じで)

…私のことを軽蔑したかい？

だが、どうかわかってほしい。

私はただ君に私の想いを知って欲しかっただけ…

(ふと再び激しく勃起し始めた主人公のペニスに驚いて)

【位置：正面・近】

…ま、待ちたまえ。

ど、どうして君は、さっき果てたばかりなのにもうそんなに勃起しているの…？

え…？ 四つん這いになってお尻を突き出せ？

あ、あははっ♡

じよ、冗談はよしたまえ。

まさか、さっき射精したばかりなのにまたすぐに…。

んひいひいひいひいっ♡

んあっ♡ はあっ…♡ ひあっ…♡

(めずらしく焦ってる感じで)

ま、待ちたまえっ…♡

わ、私が悪かった…。

騙していたことは素直に謝罪しようっ…だからっ…んあひゃああっ♡

えっ…♡ 別に怒ってない…？

むしろ、そんなに想っていてくれて嬉しい…？ だから、もっといっぱいセックスしたいっ…？

(喘ぎつつ凄く嬉し恥ずかしそうに)

【位置：右耳・近 ASMRが生きる耳元囁き声で】

…っ…き、君という奴はっ…♡

そうやって、また私を喜ばせるっ…♡

い、いいだろうっ…♡ 今日だけ特別だ…♡ 私のことを好きにするといい♡

そ、その代わりに責任は必ず取って貰うからねっ…♡

【位置：正面・近】

あっ♡ んっ♡ くう♡

はあっ♡ ひあ♡ んう♡

んあ♡ あんっ♡ んひっ♡

だ、ダメっ♡

じよ、助手君のちんぽ気持ち良過ぎてっ…♡

【位置…正面・普】

またイクっ…♡

イクイクイクっ♡

（絶頂）

イクウウウウウウウウウっ…♡

（フェードアウト）

(SE: 主人公、千尋に呼ばれて、彼女の仕事部屋の扉をノックする)

【位置: 正面・普】

うん。入って。

(SE: 主人公入室)

【位置: 正面・近】

やあ、よく来たね。

ああ、こちらは我が社の取引先の後藤さん。

後藤さん。

彼は私の部下兼助手の…。

…えーと、名前はなんだったかな？

ほら、ぼうつとしてないで名刺をお渡しして。

うん。出来の悪い子で済まない。

ああ。人が良くて真面目だけが取り柄だね。

ほかの部署で持て余していたところを私が拾ってあげたんだ。

ほら、助手君。

早く後藤さんにお茶をお出しして。

…え？ お茶っ葉が切れている？

…やれやれ。

君は本当に使えないね。

うん。今日はもう帰っていいよ。

家に帰って大人しく料理でもしていて。

(状況: 主人公、言われたとおりに部屋を出て行く)

【位置: 左・普】

ああ、うん。

ごめんね。後藤さん。

いつもはもう少し使える子なんだけど。

(演技: 主人公に視線を送りつつ、あくまでも表向きは取引相手と喋っている感じで)

【位置：正面・近】

…ああ、ところで後藤さんはハンバーグは好き？

私はハンバーグが大好きでね。

特に中にとろとろのチーズが入ったものに目がないんだ。

(フェードアウト)

(場面が切り替わる。主人公と千尋が同棲する部屋へ)

(SE：ノックの音)

うん。ただいま。

(SE：扉を開く音)

(SE：扉を締める音)

(演技：二人きりになった瞬間に脱力してデレデレで思いきり甘えてくる千尋)

【位置：正面・近】

…ふー。

今日も疲れたあー…。

ねえ、助手君。お疲れ様のよしよししてー♡

え…？ 職場と自宅で態度が違い過ぎ？

…だって、仕方がないでしょ？

あくまでも、会社での君と私の関係はただの研究者と助手なんだから。

ほら、そんなことより今日は漫画とかでよくあるアレやってよ。

ほら。

【位置：左耳・近 ASMRが生きる耳元囁き声で】

ご飯にする？ お風呂にする？ それとも、

わ・た・し？っていうヤツ♡

【位置：左・近】
はい、どうぞ。さんはい。

【位置：正面・近】
はい、よく出来ました♡
「いやー、君は本当に素直で可愛いね。
まさか本当にやってくれるとは思わなかったよ。

ああ、ごめんごめん。
そんなにむくれないで。

え？それで、どれにするのかって？

【位置：左耳・近】ASMRが生きる耳元囁き声で
ふふ♡ そんなの決まっているじゃないか♡

(おもむろに主人公に唇を寄せて)

【位置：正面・密着】
んっ♡ ちゅ♡ むちゅ♡
はあむ♡ れろ♡ れろ♡
へろっ♡ んちゅ♡ くちゅ♡

ふはあ…♡

私が君以外のものを求めるなどという選択肢が存在すると思っていたの？

んっ♡ ちゅ♡ じゅぷ♡
はあむ♡ じゅぽ♡ じゅぽ♡
れえろ♡ れろ♡ れろれろお♡

はあ…はあ…。

【位置：左耳・近】ASMRが生きる耳元囁き声で
ふふ、暑くなってきた♡
ねえ、脱がせて…？

(SE：衣擦れの音)

【位置：正面・近】

ふふ、ありがとう♡

じゃあ、今度はお礼に私が脱がせてあげる♡

(SE：衣擦れの音)

これでよし、と♡

あら？

随分と汗をかいているみたいね。

じゃあ、私が舐めて綺麗にしてあげる。

【位置：正面・密着】

れえろ♡ れろ♡ ちゅ♡

れろれろ♡ れえろ♡ れろ♡

ちゅ♡ ちゅば♡ ちゅぷ♡

れろ♡ れえろ♡ れろれろ♡

【位置：左耳・近 ASMRが生きる耳元囁き声で】

ふふ♡ また勃ってきた♡

ねえ、もう入れてもいいよね？

え？ 最近、ちょっと勃ちが悪い？

あら、それは大変♡

え？ なんて、嬉しそうなかって？

ふふ♡

じつはね、こんなこともあろうかと用意しておいたものがあるの。

(SE：衣擦れの音||ポケットから何かを取り出す音)

【位置：正面・近】

じゃーん♪

私が開発した「ミナギルン(仮)」という勃起薬だよ♪

(*かっこわりかっこじと口で言ってください)

私のこれまでの研究成果の全てを注ぎ込んで作り上げたノーベル賞級の勃起薬さ。

さあ、早く飲んで♡

私はもう君のモノを感じたくてウズウズしてるんだ♡

あ、そうそうこの媚薬も一緒に飲んでね…♡

(SE:蓋を開けて飲み物を飲む音)

【位置:左耳・近 ASMRが生きる耳元囁き声で】

…どう? 身体が熱くなってきたんじゃない?

(即勃起したペニスを見て)

あっ…♡

うふふ♡

我ながら自分の才能が恐ろしいね…♡

まるで鍛えた鋼のようにカッチコチ…♡

それでいて、火を入れたばかりの鉄のよう熱い…♡

さあ、早く挿入れて?

(SE:挿入音)

【位置:正面・近】

んっ…♡ んん♡

あっ…♡

は、入ってきてる…♡

お、おっ…♡

んっ、くっ…♡

【位置:左耳・近 ASMRが生きる耳元囁き声で】

あは…♡ 凄…♡

君の大きなおちんちんが…♡

私の膣内(ナカ)を押し広げているよ…♡

ん、んんっ♡

おっ…ふっ…♡

んっ…♡ あんっ…♡

おっ…♡ はぁ…♡

ふう…♡ んう…♡

ふふ…♡

奥まで届いたね…♡

ほら…♡ 動いていいよ…♡

私のおまんこは君専用なんだから…♡

(SE:ピストン音スロー)

【位置:正面・近】

んっ…んううっ♡

来てる…♡

君の太くておっきいおちんぼが…♡

私の膣内(ナカ)を行ったり来たりしてるっ♡

んっ♡

んんっ♡

私の一番気持ちいいところっ♡

ゴリ、ゴリっ♡

んくうっ♡

擦りつけてるっ♡

私の愛が詰まった勃起薬でっ♡

おちんちんビンビンにしてっ♡

おっ♡

浮き上がった血管がマンヒダごしごししてるっ…♡

(SE:ピストン音普通)

んぁあっ…♡

だ、だめっ…♡

恥ずかしいのにっ…♡

気持ちよくなってるっ…♡

変な声出ちゃうっ…♡

んっ…♡
はあっ…♡
ふうっ…♡
はあん…♡

【位置…左耳・近 ASMRが生きる耳元囁き声で】

ね、ねえ…♡

君は…私のこと好き♡

んうっ…♡

え…？ なに？ もう一回言っ…？

んああっ…♡

ふふ♡ 嬉しい♡

私も…私も君のことが大好きだよ♡

しゅきしゅきしゅき♡

ねえ、キスして…？

【位置…正面・密着】

んっ…♡

ちゅっ♡

はむ♡

ぺろっ♡

ぶはあっ♡

…君の舌、温かくて柔らかい♡

ちよっと息が臭くて…♡

舌苔がこびりついてザラザラして…♡

クセになっちゃうかも…♡

んっ…♡

はあむ♡

ちゅ♡

むちゅ♡

れろっ♡

くちゅ♡

ちゅぽ♡

れえろ♡
れえろれろお♡
ぷはあ…♡
んっ♡
あっ♡
はあああん♡

【位置：左耳・近 ASMRが生きる耳元囁き声で】

…なあに？
私の大人のキスに火が点(っ) いちゃったの…？
んっ…♡
ふふ…♡
君って…♡
んはあ…♡
本当に可愛いね…♡

いいよ…？
もっと激しく突いて…♡
君のケダモノみたいなおちんぼで…♡
私のおまんこめちゃくちやにして…♡

(SE：ピストン音高速)

【位置：正面・近】

んあ♡
あっ♡
はあん♡
んおっ♡
おっ♡
おっ♡
おっ♡
あっ…♡

溢れてきてる…♡
私のナカのエッチなおっゆ…♡
おっきなおちんちんのカリ裏にかきだされて…♡
涎みたいにダラダラ溢れてきちゃってる…♡

んっ♡

あぁっ…♡

…っ♡

…み、見ないでっ♡

…今、私、凄く変な顔してるからっ♡

気持ちよすぎて…♡

目の焦点合わなくなってきた…♡

クスリのヤリ過ぎでアへってる…♡

ジャンキーみたいな顔してるから見ないでええっ…♡

んおおっ♡

んほっ…♡

ほおっ…♡

おっ…♡

おっ…♡

ん、おっ…♡

あ〜っ…♡

きてるっ…♡

おっきなカリでGスポット擦られて…♡

お腹の奥から…♡

なんかギモチいいの来ちゃってるっ…♡

おっ…♡

特製媚薬で垂れ流しのガマン汁がっ…♡

おまんこの中いっぱいに広がって…♡

おまんこ気持ち良さに溺れちゃうっ♡

ん、おほお…♡

え…？で、出そう…？

んうっ…♡

…う、うん♡

い、いよいよ…♡

んあぁっ…♡

私の…♡

んう♡

私の膣内に…♡

んあはあ♡

ああっ…♡
まだ…まだ出てる…♡
ふ…ふふ…♡
これはもう妊娠確定だね…♡
あれ…♡
もう抜いちやうの…？
ふふ♡ 残念♡
もう少し孕ませられた余韻を楽しんでいたかったんだけど…♡

(おちんぼを引き抜く)

【位置…正面・近】
んあ…♡
ん、んんんっ…♡

(SE: ザーメン逆流)

ふう…♡
んふ、ふふふ♡

見て…♡
凄い量のザーメンが膣内からごぼごぼと溢れ出してる…♡
愛液と精子で床がドロドロに…♡
ふふ♡ お風呂に入る前に床掃除をしなくてはダメね…♡

え…？ 掃除はやっておく？
だーめ。
私も手伝うよ。

【位置…右耳・近 ASMRが生きる耳元囁き声で】
だって、これからは何事も君と私の二人でやっていかなくはならないんだから…♡
…ねえ助手くん？
これからもずっと一緒にいてくれるよね？
うん♡

これからは病めるときも健やかなるとずっとずっと一緒にいようね…♡